

高等部重複障害学級 実習（共通）学習指導案

日 時 令和2年11月6日（金）

10：10～11：00

指導者 西山 暁子 他4人

1 題材名 「清掃をしよう」

2 題材について

(1) ねらいについて

共通実習は、被服科、産業工芸科、理容科に在籍する生徒が合同で学習するもので、高等部卒業後の社会自立に向け、清掃、封入、仕分け、栽培、喫茶サービスなどの活動を通して、就労への意欲を高め、職場での仕事の進め方やコミュニケーションの取り方を身に付けることを目指している。各活動においては、各学科の専門実習と同様に、様々な活動の中で、安全に作業をする力、手順を守り正確に作業をする力、丁寧に作業をする力、時間いっぱい取り組む力の習得を目標とする。

本題材では、清掃検定初級の2種目（机上清掃、自在ぼうき清掃）の練習に取り組む。検定の審査基準に則して作業を行うことで、自分の作業を客観的に捉え、求められる質の仕事をするようとする態度を身に付けられるようにする。また、道具の正しい使い方や清掃の正しい手順には理由があることを理解し、より安全で丁寧に作業をする力を高められるようにすることをねらいとしている。

(2) 生徒の実態

本集団は、男子4人、女子3人の計7人である。また、1年生3人、2年生3人、3年生1人の異年齢で構成され、本題材の学習に取り組むのは、2・3年生が2回目、1年生が1回目である。人工内耳スピーチプロセッサ装用や補聴器装用の生徒がおり、音声のみで認識し口話でのやり取りが可能な生徒がいる一方で、音声による言葉の聞き取りが難しい生徒もいる。また、言葉の理解については、言葉のみの指示で内容を理解できる生徒と、図などのツールを用いることで理解できる生徒がいる。このように聞こえの状態や、言葉の理解に差のある集団であり、授業においては、口話、手話、イラスト、写真など、様々な手段で伝達が必要である。授業中の生徒同士のやり取りは主に手話を用いて行われるが、内容が十分に伝わらない場面では教師が仲介することもある。

本集団全体が、学習に対する興味関心が高く、課題に意欲的に取り組むことができるが、一部の生徒は集中力が持続せず、離席が見られることがある。このような場面は個人での活動において多く見られ、グループやペアなど生徒同士の関りがある活動ではあまり見られない。

(3) 指導上の留意点

本単元においては、清掃を課題として取り扱う。生徒は学校の清掃の時間や家庭において日ごろから清掃を行っているため、自分のやりやすい方法や手順が身に付いている。日常生活においては十分に目的を達成できていると考えられるが、就労場面と捉えると、仕事として求められる質に応じていく必要がある。そのため、本単元では、検定の審査基準を意識しながら作業に取り組むことに重点を置いて指導する。教師や他の生徒による評価はもちろん、自分の作業の画像を基準と照らしながら自己評価することで、客観的に自分を見付ける力を高められるようにする。

1年生に対して2、3年生が模範を示すなど、異年齢集団の特性を生かしながら学習を進める。2、3年生に対しては、昨年度の学習を振り返る機会を設定し、より高い目標をもって学習に取り組めるようにする。

3 題材の目標

清掃検定（初級）の練習を通して、必要に応じて道具を選択し、正確に取り扱う技能を身に付けるとともに、よりよい作業の在り方を意識しながら様々な活動に取り組もうとする態度を育成する。

4 題材の評価規準

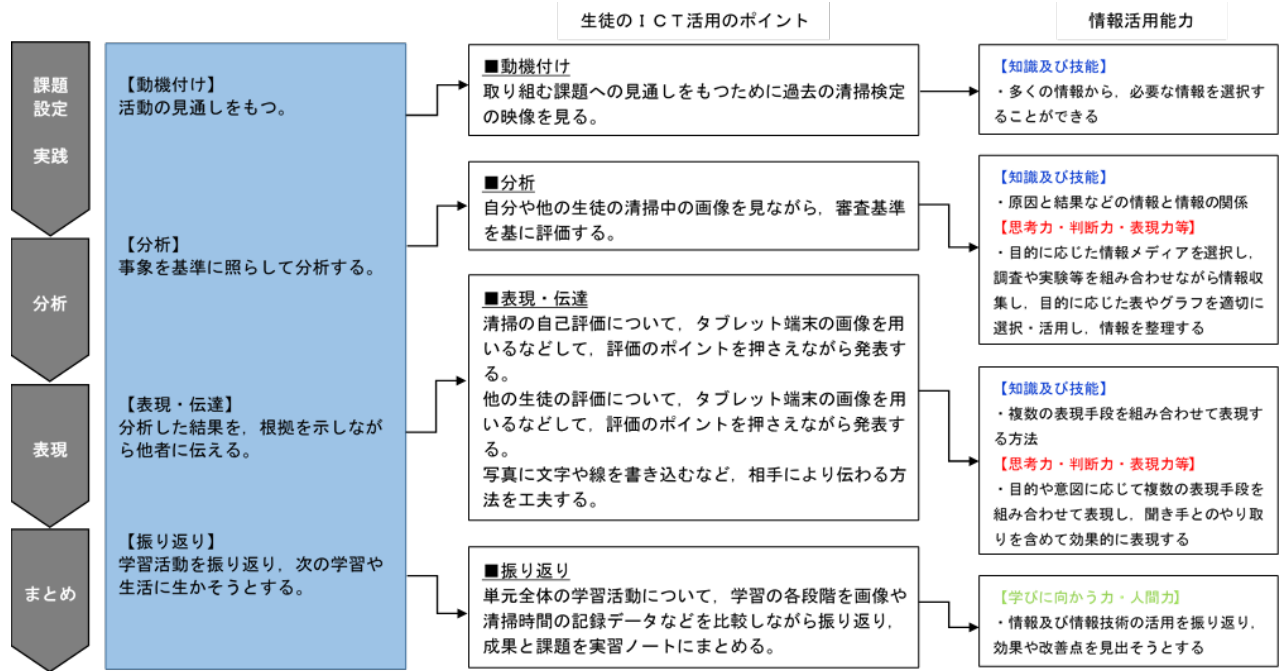
知識・技能	思考・判断・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
① 道具の名称を覚え、正しい使い方を身に付けている。 ② 清掃の手順を理解し、清掃のポイントを意識しながら清掃をすることができる。	① 正しい手順と実際の作業の差異を明らかにしながら、評価を伝えることができる。 ② 自分の作業のしかたを振り返り、正しい手順との差異を明らかにして反省することができる。	① 正しい手順や方法で作業をすることを意識し、反省を次の学習に生かそうとしている。

5 指導計画及び具体的な評価規準（24時間取扱い）

時	学習活動	指導上の留意事項	具体的な評価規準・評価方法
1	清掃検定について知る。	初級には机上清掃と自在ぼうき清掃の2種目があり、それぞれに正しい手順や方法があることを理解できるようにする。	机上を「拭く」作業と床を「掃く」作業に取り組むことを理解できている。（発言・記述）（知・技）
8	机上清掃をする。 ① 道具の名称と使い方を知る。 ② 清掃の手順を知る。 ③ 清掃の練習をする。	生徒の実態に応じた提示方法により、道具と名称が一致できるようにする。 写真や動画を用いて、清掃の動作をイメージできるようにする。 適宜写真や動画で振り返ることで、成果と課題を意識して取り組めるようにする。	使用する道具の名称を覚えている。（小テスト）（知・技） 手順のとおりにより机上清掃をすることができる。（行動）（知・技） 自他の作業のよいところと直した方がよいところを理由も併せて説明できる。（発言・記述）（思・判・表） 反省を次の学習に生かそうとしている。（発言・記述）（学・人）
9	自在ぼうき清掃をする。 ① 道具の名称と使い方を知る。 ② 清掃の手順を知る。 ③ 清掃の練習をする。	生徒の実態に応じた提示方法により、道具と名称が一致できるようにする。 写真や動画を用いて、清掃の動作をイメージできるようにする。 適宜写真や動画で振り返ることで、成果と課題を意識して取り組めるようにする。	使用する道具の名称を覚えている。（小テスト）（知・技） 手順のとおりにより自在ぼうき清掃をすることができる。（行動）（知・技） 自他の作業のよいところと直した方がよいところを理由も併せて説明できる。（発言・記述）（思・判・表） 反省を次の学習に生かそうとしている。（発言・記述）（学・人）
4	検定のリハーサルをする。 【本時2／6】 ① 机上清掃 ② 自在ぼうき清掃	生徒同士で清掃のポイントについて評価しあうことで、正しい方法を意識して作業に取り組めるようにする。	手順のとおりにより清掃をすることができる。（行動）（知・技） 評価を具体的に伝えることができる。（発言・記述）（思・判・表）

2	学習を振り返る。	練習前と練習後の清掃の画像を比較し、どのように課題が解決できたかを自己評価及び相互評価ができるようにする。	清掃のポイントに沿って具体的に評価を伝えることができる。(発言・記述) (思・判・表)
---	----------	---	---

6 題材全体での ICT 活用と情報活用能力の育成



7 本時の展開 (20 / 24 時間)

(1) 目標

- ①清掃のポイントを意識しながら、制限時間内に手順のとおり清掃を行うことができる。
- ②清掃のポイントを押さえ、相手に分かりやすく評価を伝えることができる。

(2) 展開

過程	学習活動、主な発問	指導上の留意点・評価 ○指導上の留意点 ☆評価	□ICT活用の意図 ◆情報活用能力の育成
導入 10分	1 前時の活動を振り返る。 2 本時の活動を確認する。 机上清掃をしよう。 3 ペアで目標時間を設定する。	○ 使用した道具を示し、活動を想起できるようにする。 ○ 前時の記録を基に、本時の目標時間が設定できるようにする。	□ 参考にするために前時の記録ボードを提示する。
展開 35分	4 清掃の手順を確認する。	○ タブレットを用いて机の写真にマークアップ機能で順路を書き込むようにする。	□ タブレット画面をモニターに映し、全員で共有する。

	<p>5 机上清掃をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 清掃のポイント ・タオルの洗い方 ・タオルの持ち方 ・清掃の順序 ・入退室のしかた </div> <p>6 反省・評価を発表する。</p>	<p>○ 記録者は清掃のポイントに沿ってタブレットで写真記録を取る。</p> <p>○ 一人ずつ実施後に所要時間を確認し、記録ボードに記載する。</p> <p>☆ 清掃のポイントを意識できているか。</p> <p>☆ 手順どおりに作業ができているか。</p> <p>○ 課題だけでなく、良かった点も伝えられるようにする。</p> <p>○ タブレットの画像にマークアップして、分かりやすく説明できるようにする。</p> <p>☆ 清掃のポイントを押さえて、分かりやすく反省や評価を伝えているか。</p>	<p>□ モニターにタイマーを表示し、時間を意識できるようにする。</p> <p>□ 写真をモニターに提示し、全員で共有する。</p> <p>◆ 複数の表現手段を組み合わせる表現する。</p>
<p>終末 5分</p>	<p>7 本時を振り返る。</p>	<p>○ 実習ノートに本時の反省を記入する。</p>	

(3) 評価

- ①清掃のポイントを意識しながら、制限時間内に手順のとおり清掃を行うことができたか。
- ②清掃のポイントを押さえて、相手に分かりやすく評価を伝えることができたか。

(4) 場の設定

